

小兒養育金礎

十武
271



脾肝藥王圓く外こ此藥の功也

咳治散
せいの妙藥

是妙丸
せいの妙藥

止痛散
せいの妙藥

即妙散
痲病せいの妙藥



脾肝藥王圓効能書 小兒養育金礎



可憐天兒疾病非無治之方此乃為不擇用能藥遂死矣
潛夫論曰養壽之士先疾服藥云

抑此脾肝藥王圓の効能脾胃を補ひ肝とあつめ氣血と明
し痛の滞とよく判伏すとと玉とするは化藥なるを以て
方名とて凡人の病とて患と疾病絶たありとて其内
よりして病む症の五臓の内或は一二の臓運轉力不足して
お其ふ和する能らざるより發中。夫五臓の脾胃を奉とて此脾
肝藥王圓の功とす。脾胃と補ふの功とす。とて書す
是を服用すれば無病長命なり。と蓋し僕が父是貫ある者

あつた方業ふ不思議の初め。歡々成以て周く諸人の病
患と救ふなきを志す。又以て為人の緒病万病諸病ありぬ
劑とて必一方のよう是を治す人なきはうらむべしと憂ふ
あつて文化四丁卯年より己未と乙未年の四つはははは
たつて織り果しては病の月も知あつたと云つたり。最
も病ふ急げり時。業力廣大うらむ。腹に不治を免ぬ。死路も計
かんとするのを志す。不思議の如くは救ふを得たり。又
小病日うつら。強志とて久くと業救属とて久くと。功なきは
うらむと標ひ洋々うらむ。又四年乙未七ヶ年乙未
益ねん力とて。様々酒年あつて。急げりなきことうらむ
と云ふ。標ひの依てその如くの有無を憂ふ。且少くは

心得り夏件を記す。少くは養育金礎と題す。あつた業の
なき。見込の病人に肉價と厭ひ。薬と求む得ざる人あつた必
代價不抱り。はははは。病患の多うと救ふ業を欲す。諸
人の病の四つは君子希なり。志願ふ乞ふ。久しう
唯僕而已幸ひぬらんが

于時明治五年

鼎貫男

勝信謹誌



明治七年 甲戌 初春 再彫 期改補

五かん并緒の図



友生鈴木氏来訪而

翁今瞿錄猶容貌童

顔光澤聲音壯大實

可謂地仙長遺其仙

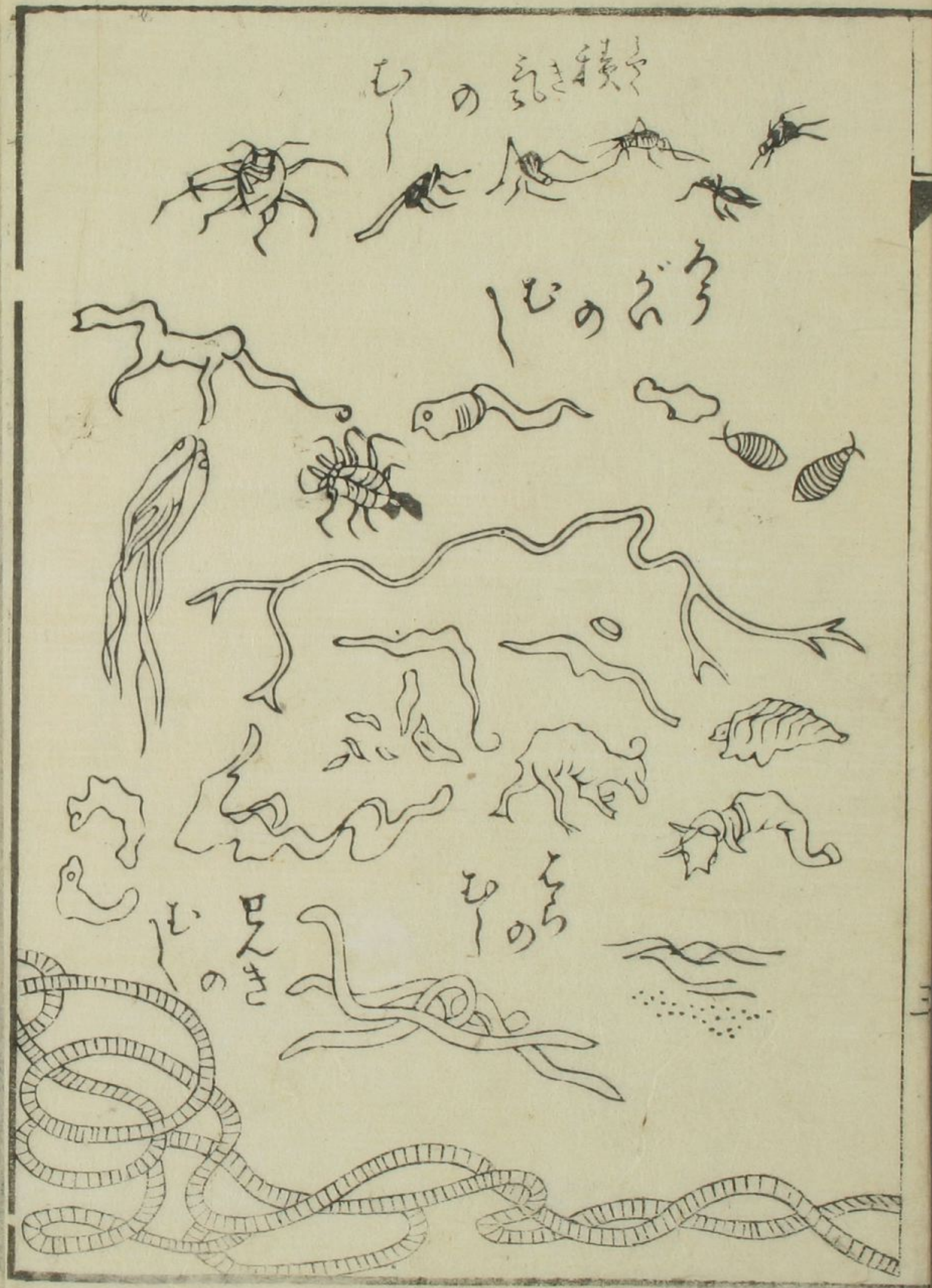
容以可額此書与賞

誦之餘直執筆

石田昂貫翁九十五歳肖像

百年壽謹写





凡例

一 此書ハ病症ノ経ハ脾行氣ノ系ノ初能ノ有キヲ記シ
 小兒若クハ月ノ血得ヲ記ナクハ吐婦女子ノ経ヤクハ
 小兒若クハ月ノ血得ヲ記ナクハ吐婦女子ノ経ヤクハ
 或ハ病人ノ心ヲ得テ経ヲ記ナクハ吐婦女子ノ経ヤクハ
 吐書ハたとハノ業用ハナクハ小兒若クハ方ハ何故トカ
 紀一ある如クと續キテ後ハ初能ノ方ハ何故トカ
 此書ハ吐薬ヲ初メんとシテ文章ヲ加ヘテ能ハシ
 小兒若クハ月ノ血得ヲ記ナクハ吐婦女子ノ経ヤクハ
 吐薬用ヒテ其如クノ月ノ血得ヲ記ナクハ吐婦女子ノ経ヤクハ
 吐薬用ヒテ其如クノ月ノ血得ヲ記ナクハ吐婦女子ノ経ヤクハ

ありとも押し押し入る目し不快なる朝日昇りたる
 昼に病ふれをきき彼と違ふ事あり天候を
 ざる不命を先人より知れぬ。又書を述り用ひる間
 少しの新法もわづらひる人なく世にても詮あるべし
 此薬の主人のうらさく小抱りたる病に用ひても知れぬ
 此薬の用ひるべき方の案はほむおしや加減さるべし供の人
 伝来の方不用ひると必らく死にたりし
 此能書は別に代科ふ及び進ずるはが御など兼科
 の外に能書奉り代科のやとあぐまを人々必し行へるを
 以上

冊中目録

脾肝藥王圓用法	六丁オ	一肝疳虫	雲十五丁オ
大人毒養生	略六丁オ	一心疳虫	言選トモ十五丁オ
小兒諸病脾胃論	七丁オ	一肺疳虫	散氣トモ十六丁オ
一産心得夏	八丁オ	一腎疳虫	北魚トモ十六丁オ
一 生兒心得夏	九丁オ	一脾胃虚諸症	十六丁オ
一 小兒養育心得夏	十二丁オ	一癖積	癖虫トモ云 積 附大人の癖 十七丁オ
一 脾疳虫	乳離 十四丁オ	一疳痢	附大人の痢病 十八丁オ

一 臍風撮口	丸五	一 傷寒	丸四
一 臍瘡	丸五	一 留飲	丸四
一 中暑	丸五	一 血閉	丸五
一 翻胃	丸五	一 勞咳	丸六
一 眼病	丸五	一 崩漏	丸七
一 諸病胎毒論	丸五	一 赤白帶下	丸七
附 大人効驗有夏		一 脹滿	丸八
		水腫	丸七

以中上

小兒養育金礎

○脾胃藥王圓用法

一 小兒出生より五六日迄一日一貼（丸五） 好む乳を以て授けしむるべし
 一 小兒六日より十日迄一日一貼（丸五） 好む乳を以て授けしむるべし
 一 小兒十一日より十五日迄一日二貼（丸五） 好む乳を以て授けしむるべし
 一 十六日より二十日迄一日二貼（丸五） 好む乳を以て授けしむるべし
 大人小兒とも七日の月ふゆをすべし 乳食をよく授けしむるべし
 兼功と云ふは又少くも効驗なり 好む乳を以て授けしむるべし
 右の丸は功の大ききと云ふ病の種重なるは 平安と云ふ養育の功あり
 月日と云ふは丸の種なり 好む乳を以て授けしむるべし 一日一貼と云ふは

由用回一日本一結つとひを卦結つと用典大痛よても引絶ま言ふ用
 中量の害はしほ只少量の後小用は長は短き功もたはしむはたさ

○大人 主母養生 大畧

一書全全後一汁業一房多一大酒一大食一りりまめ一かき餅
 一味湯汁一豆腐一麵さる一餅一た念一生活一生活一生活一生活
 一かから果一か小一かばらや一あま酒一そんや一汁氣のさ
 此外想一健常矣一物おろろ物一腎強相一をれ色を相一香味のり
 有け茶王秀の葱むゆ一禁するふら此良劑を用ひるはら病
 小六古考一多多く食すは勿ら病を養い一むゆふふの薬主家と
 用ひる一病ひるふ抱りては体業するとも必結むべし一富一薬主家

の功と知り用ひたく思ひなご。食禁を然ひ用ひる人なり。後止
 事なり。病ひ強き一二度の。食一ても尚もこり病の
 病ひぬるべし。た病病お對一。葱むゆの養生もく業のさ
 合ふあはる事よしく一心得る

○小兒諸病脾胃論

萬物あり本末あり。味氣草木の本を知り。根と葉へを。根葉
 も葉のべし。其本を知れば。葉の葉のこを。葉ふとも。益あり。し
 況や病を療するふ。病おや。夫人身の五臓六腑を本と。諸病を
 一とひるも。病ひぬる機。是不及より。病ひぬる。而して

の氣丈なるやうに心煩苦痛なり切あらしを考へざる人あり希に
 幸えしく結業を用いても効なく。ことと死病と受給さるる
 後の病人小引ひて白濁の後快癒ふなる如きの効驗と云ふ

○産心得の更

胎前して三月のまう過期血の滞りとも又妊娠とも分るる時
 胎前王國計通り経月日ハ胎前なりハ子後をよく言ふ月
 満るまういづれに經水なく胎と墮のらひなり。産後を去り
 又瘀血の滞りなく必速に經水あらし臨産の前ありの上居れ
 ところ半をせし経より。居てうて後産の如く。胎後ハ安生散とき
 針灸のら思へ。六うき胎産あても母子ともらやまらうく
 速に小出せしする如かり

○安生散方

- 麝香 三リン
- 竜腦 二分
- 車前子 壹分
- 木香 三分

右あかじより。粉うく細くおれ水九抄合後。酒すくく入す
 月也。扱安生散して後。一七夜のうら。け業と云ふ丸業一日お針灸
 づと。苦帰湯を扱づと日々急用也。瘀血のら下す
 産後一ありれ病なく急用也

○芎歸湯方

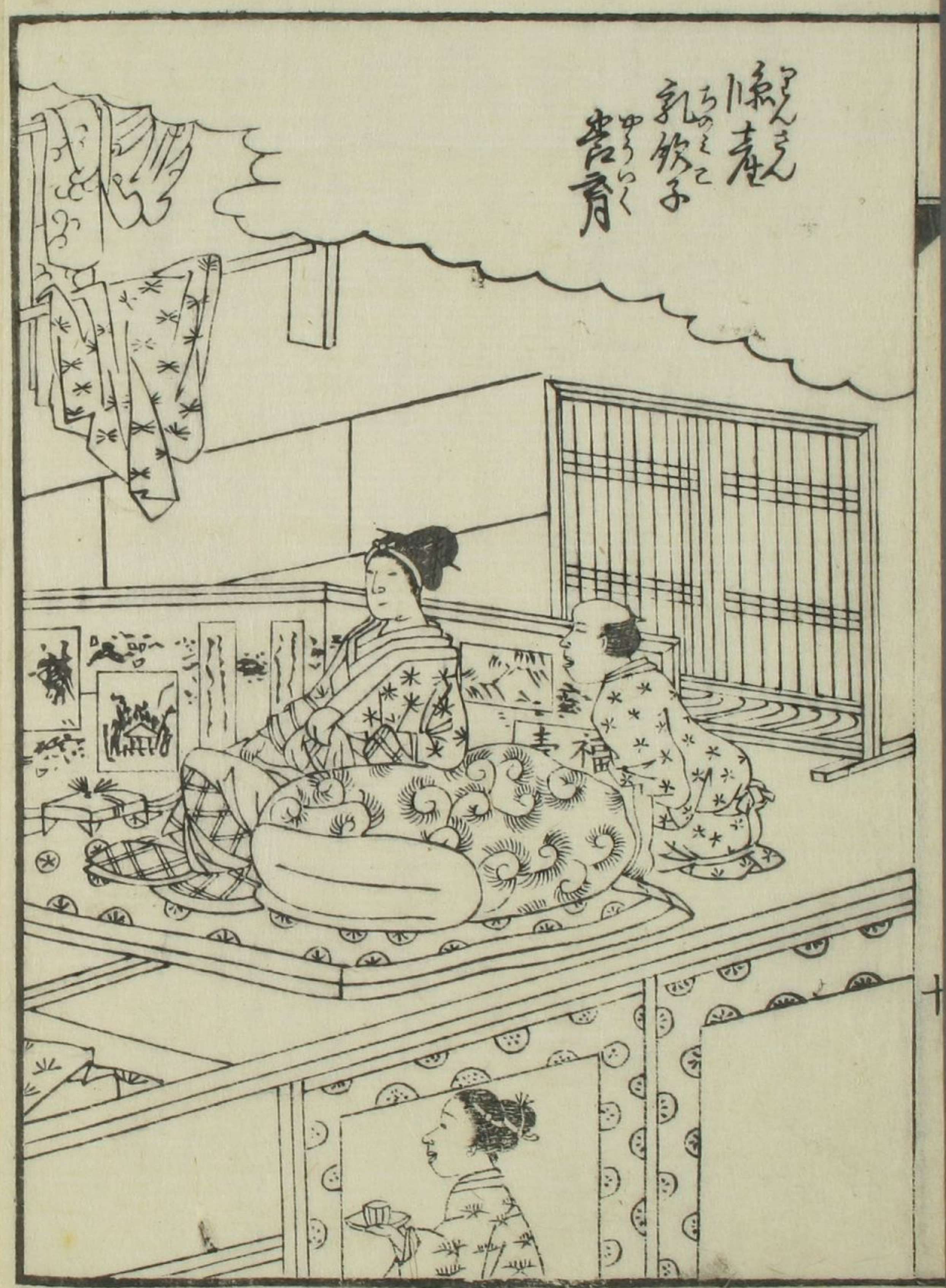
- 當歸 三升
- 川芎 升半
- 外 人參 八分
- 紅花 五分
- 加

大水き合す入き合ふ見ぐ業と云ふ急用也
 産後血のらなる婦人ふけ業と云ふ丸業一日お針灸

○生見心得の支

出生の節產科產婆よりお産婦にお打かき居く。産見の
 ころは後ふなるものあり。母を大切にするはたもるべし。胎毒を
 見成長の後とを病なるう病根を壊して多病なるう。生涯に
 一六半唯この時あり。又中うさふとまふらう。小兒母
 の胎肉を切る時はうらふ命を穢毒和らふ意で咽ふ入り。
 右腎色絡よあつむ時を穢毒あらしとくせ。成長の後まで胎
 後の根となり。産より種く小童にて。生涯病の害とぬす。必
 中へ入るべし。出生の時胎毒と毒を和らする人侍ふ。胎毒を産
 見の初めわづらう。紗製と脂を巻て。よく産見の申成
 成どけとく。拭ひとるべし。出生して皆乳を授けり。乳を授けり。

大便黒乳結の申うなるを毎俗カニコ、とも。カニバとも。是
 是産毒をばらるる。母の胎肉を受くる穢毒をばらるる。胎
 液をばらるる。乳をばらるる。カニコ、の毒を止むなり。
 故に乳を授けり。おと産後より。乳の二十日は時とつけらる。
 宜法なり。産婦の乳は口はす。乳をばらるる。ぬめのぬめを
 其間の乳を授けり。すとも。小兒お産ある半。乳を授けり。
 ほけり。産乳の申下新し。無し。産見の時。胎毒をばらる。
 人あり。大から産見のあり。母の胎肉を受くる。穢毒をばらる。
 がぬふ。自然と出る。後より産乳を授けり。授けり。授けり。
 授けり。授けり。授けり。授けり。授けり。授けり。授けり。授けり。
 のなり。それ天自然の理あり。とく。母の乳は。授けり。授けり。



廿四時とまらつる糸。此より束めて糸を各一。或は結構なうり糸乳と
りう乳といふを煮てうり乳の。人知を以て天痘ふをむくゆ
後まのうり脾海ふを煮て成長の後まで多病の礎となる心
はるまきの大事なり

但し、此を括弧よりいへば、此の月拾あらず

○乳をつくるまふ。其系目より母をみか。皮とまると大く多くきこ
こて、あまを合入るをめり。或はきぬるうり月白。後まのうり乳
カニコ、小豆。又は煮小豆。のみこる。糶あり黄なる。糶は
となり。糶は、糶は、糶は。成長の後まで。糶は、糶は、糶は
一む。五香耳連湯。ならすけの乳。月白。糶は、糶は、糶は
くは。糶は、糶は、糶は。糶は、糶は、糶は。

よく脾となすけ。昔人の肥立の後も昔は安く。又行を若く入る
脾を補ふふ志。うり乳とわすありて。此はふより。昔は、糶は、糶は
子。糶は、糶は、糶は。糶は、糶は、糶は。

○小児養育心得の言

乳母の留飲あり。又熱或は梅あある人の乳。糶は、糶は、糶は
小児をこころの愛を。糶は、糶は、糶は。糶は、糶は、糶は
換ドやま。糶は、糶は、糶は。

○乳母の飲食小。小児を強くせん。糶は、糶は、糶は。糶は、糶は、糶は
を味。糶は、糶は、糶は。糶は、糶は、糶は。
糶は、糶は、糶は。糶は、糶は、糶は。

○常く大便ふを。糶は、糶は、糶は。糶は、糶は、糶は

てう。若く或は黒く白くぬる時必痛あり。その節は血大
小の血の経なく痛ひ發する。血あり取あも取り用
し。若く血をとりぬる。

但し、兼系を引ひく大役り。血をとりぬる。

○余り大切うして血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
なり。成長の後とも。血をとりぬる。血をとりぬる。

○脾はよき小兒の血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
で之を。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。

○凡く小兒若育の心得は。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
所小兒の血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。
血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。血をとりぬる。

世の中やまひ
小兒も苦しむのむね
うのどく紅痢一掃毒の
うきふもはささあさあ
おれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれ



ひんりの中い乳
たふみ()のしあふ
まみらハヤサのりき

心解りの
あまら

ふんあ



藥王圓の脾胃を補益とせしむる良劑なり。神生より一年の間小治無く月日を生るべし肝要なり。

○脾胃の奥

夫小兒の脾胃いまだ弱きが故に乳食六七八歳までよく大切なり。とくに母子の乳食不化より脾胃と換じお腹痛下泄を患じ乳と脾胃といふ乾中乳食の節食のり不化より脾胃と換じ腹おとれぬよふとさういひ益食を食り豆粉と粉湯茶とこの二味ハ脾胃の更まて極うき物を多く好むれ皆いよく脾胃されあふまるとなり。水気と小使へみらひくと能く食物化されを候ふ大便へくくるみ志むくかをへたし小便のいこて候は候のこころ。張法ありハ葎目まとい

白朮入るほひふ育人とたり。悉皆鐵鬼のこころ。背と皮とふ節ととれへく。十人が十人となり死ふはる。是をく強志なるども止め。薬王系と辨いあふ。根本の脾胃と補ふの大便と下り止め。悪えあふと小使へ好むを。腹の強と清し。腹と下りく。薬王の脾胃薬王圓と号く。十人が十人あり候

○乳食の小兒食養生のボウトル。か白朮の和くうたか目の中なる級なり。やあふがより。餅の更だを扱かき。右の心にく。薬王とく。薬の月日。大腹のき。白く。奥乃の腐るゆき。香ひする。是後中の水あり。後腹痛り。十日余りの間。ふ死する人なし。月日く。効なり。

○肝痺の虫 肝痺の虫

此痺は食物の不潔より脾胃虚して瘀血を行の二條より入
り瘡を成して神志をさまたげけしむの事もある。此は
目とひきつけを成すとびくはらせ。年死するを急發風といひて
火急なる病あり。因らざるやと慢驚風といふ。此は小葉王を
とやく用ひあはれしつけを治すべし。後て用ひあはれ招とせらる
ゆゑするふれたての。又日月十日めふらるるを。瘧疾といふ。此は
らが治する事なり。

○心痺の虫 言遷ともいふ

此痺は瘧疾の一種なり。心乃瘧の一種なり。七八歳ふれても
治まらざる。此は心に瘧疾を成す。此は心に瘧疾を成す。此は心に瘧疾を成す。
と救人ふ用ひたれし。とせせしむるも切なり。

○肺痺の虫 散氣ともいふ

此痺は鼻のした赤くたがま。牛のたがまをせしむる。此は肺を瘧疾を成す。
此は肺を瘧疾を成す。此は肺を瘧疾を成す。此は肺を瘧疾を成す。
りらひく。考めふ治す。

○腎痺の虫 背虫ともいふ

此は胎毒腎ふれ。此は胎毒腎ふれ。此は胎毒腎ふれ。此は胎毒腎ふれ。
の節と合して。此は胎毒腎ふれ。此は胎毒腎ふれ。此は胎毒腎ふれ。
治す。此は胎毒腎ふれ。此は胎毒腎ふれ。此は胎毒腎ふれ。此は胎毒腎ふれ。
のいづらなり。

○脾胃虚諸症。疝ありま〜

○生米研きほろろ去滓けし炭たきく食み見も治す

○絞みとろへ煎み煮干しらひで煎大きなる以ふよ〜

○煎みかぶと煎みとろる煎み煎みあふ常すめらひ四時と治す

○煎みゆり〜煎みゆり或は煎みゆりも治すゆりゆり〜

○煎みゆり〜煎みゆり相好ききみゆりゆりゆり〜

○疝とて常〜疝の如くゆりゆり〜疝とて常〜

○暖み塊あり〜狗走く若返眼とるめり思ふよ〜

太み候のわらわらりといふもの多し候瘰癧〜瘰癧とほし
疝のむ〜と生ずる小疝癧

○瘰癧積 附大人の久瘰癧

この疝は後小塊より〜字熱性也〜大人の瘰癧は〜
俗にむ〜みりといふ薬を小柴胡湯の口ん汁
み〜りらひ〜

○小柴胡湯方

柴胡 八分 黄芩 五分 人参 二分
甘草 一分 半夏 三分 大棗 三分

太み候〜生薬一斤〜一日小三〜
薬を多丸薬ゆ〜と思ひらひ〜

○大人の瘰癧は一年〜も〜らひ〜



小田の事
 大いなる事
 効あり
 論
 此二丁目

是れ
 是れ

速ふからる半奇妙なり。舌ろく三日ケ月余の久膿なうてん
知すくお

○疝痢 附大人の痢病

小兒の痢病ハ大人の痢病とらふ。穢胃乃虚の由なり。於
血穢胃入下痢之のらふ。穢胃乃虚の由なり。於
穢胃の氣よりなり。後力ぬけく。破れと爲る。甚むつ。きこ
あて凡十人が十人ぬれり。死ふも。生るも。其業を光明湯
糞汁とて用ひあむ。ば。後日。水減。一。一。二。三。分。

○光明湯方

唐 芎九分 黄連一分 唐 黄芩 五分
升麻二分 芍薬三分 當歸 五分
唐 木香 三分 桃仁 二分

右八味半の二一。見ド。一日おき。ふく。ふ。業を。ふく。ふく。と
是の用ひ

○大人の痢病ハ。此業を。あ。り。ら。甲。ふ。及。が。は。光明湯を。か。り。日。お
三ぶく。づ。用。ひ。て。よう。○。穢。の。作。り。方。大。根。を。合。し。と。よう。

○臍風撮口 丹毒と云

此症ハ小兒らう。一七枚。ら。ら。ら。年。死。す。至。て。甚。心。なり。
臍の。に。中。と。え。ま。へ。一。咽。の。ひ。こ。れ。あ。り。腹。の。ら。ら。ふ。業。は。ふ。あ。り。あ
りの。由。來。あ。り。あ。り。あ。ま。と。ひ。ひ。の。布。と。ま。れ。たり。ほ。ぐ。破
ま。が。血。わ。く。は。び。と。あ。り。一。獲。生。る。而。して。業。を。あ。り。て。よう

○。年。を。く。と。も。一。七。枚。の。う。ら。湯。が。と。ふ。布。の。紗。の。裂。れ。を。あ。ひ。し
せ。る。て。生。死。の。間。候。ひ。と。の。あ。ら。い。せ。れ。あ。り。と。た。く。あ。り。あ。り。

くやくき又舌しとけられひなす

○ 脐 瘻 わそきとふ

此病の脚らしおし其色白くなるり或は陰のごやくふなり
瘻けおし後志きりふつむおしく大切の病なり。此薬を
わらひて

○ 中 暑

傷寒論に嘔吐して刺るりの名く霍乱と有り。丈夫思の中
暑は得胃よるれ中夏月とさう乳食胃院に停滯し安く
外暑ふあふ。因乳食不消化して大熱をおさす或は吐し又
ハ泄す。此病熱多くして湯水と好む者ハ。五苓散の元ト湯
あて薬五苓散と和せり。又悪寒つよく湯水と好まざ

る。此ハ。理中湯の薬湯とて薬五苓と和せり。

○ 五 苓 散 方

猪苓 沢瀉 茯苓
桂枝 白朮 各等分

○ 理 中 湯 方

人参 三分 干姜 七分
白朮 五分

右方とも。苦薬重と分とかく煎湯をうく小薬五苓散
薬ゆらつと和せり。白朮ト和せり。

○ 翻 胃

此病ハ二種あり。薬五苓と治する心ハ得胃虚し。食物
を食胃小おさまるつとんど半時り一時。あつひハ一日二日ハ
らバ吐さ。酸おとけ入と翻胃といふ。腸不はぎらると心あり。

おうした心なれどもほすべし。痛とりぬる食物は初に滞りて
まがばを吐き吐きかくとりぬ。好むははせぬ。獨り大人ばかりあて
小児のまじりたり。翻胃の大人小児ともあり

○眼病

眼目のみ縁の精華。一月の行要のあみく。そは疾ひ七十二
種と又どもそ原因汗小属し。おとくくは痲虚し。又縁
おとくく肝さぶり眼うすく。花眼或は白腫つり。外障内
障。その外障とそまをぬすなり。外障は眼本の障と
補益のくがすむ眼の勿論。崔月或はほく入障。内障のから
も二二通り月日おほすべし
文化十三年より弘化四年までと書く
文化十三年の病

後の眼病は日と中と夜と病あり。右症は後の眼
病もまたゆふふ奇妙小病あり。遊くや来月。又
と減くるふ。不思議の功徳あり。はすなり。又ひふは
小兒をあらはす

○諸病胎毒論 附 大人如驗あり

或人云ニ問曰伊達仙の心思は胎毒より發するなり
先生の練胃虚よりおぼすなり。胎毒のつらき香と色らるる
○答て曰胎毒より疾を發するは出生の良薬を月ひく。胎毒を
ちる半は胎毒なり。問小兒出生し。問なく。腹をとり
す。ちる。二二三葉六七葉まで。胎毒あり。胎毒もなし



或は發熱がさうひの熱とほするさうりうにまじり病の原と成
み。吐前が熱さうみりさうきて用ゆる業田んせゆを知のう
あうらうとさうくさうも生産の根とほさうあさうをさうくさう
級の人ら地と遊みさうなうにた故に作の小児の差に大人
みりらひを知あさうさうさうさう。夫大人の小児とらうひさう
七傷病と犯す六氣七情と喜怒哀樂思恐驚とらう。心氣と
勞して熱病と發す。さうさうめ下とさうさうさうさうさう
積るといふ積ハ氣のさうさうさう。熱さうはかろ。氣積血
積さうさうさうさう。その原は脾胃虚する由さうさうさうさう
さうさうさうさう血熱さう血凝とさうさうさうさうさうさう
熱と六氣七情と犯すさうさうさうさうさうさうさうさうさう

廣をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
むす。後病中なう津液と吸ひ積肉と喰ひさうさうさうさう
死とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
換さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
備さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
王さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
消さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
みりらひさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

大人之部

○傷寒

傷寒の風寒を口若の天邪小からん殺する病あり一時の病を
ゆるとひ業小加減あるの急此業より及ぶれば病をよるしは医
小法をすうがよし。備室のちら札心となる事あり。是より其の
業を多月のく去めよ治す。又備室を後好るく。血不凝和
小知結あり病ひて知るべし

○留飲

此病の平生受食し。既痺と倦らるるせれば。おとやなく。根
氣不お良の思を思を。痺痺し。拍漏より下。水と制
す。中あころ。お氣よ。痺り。大便つ。結し。心下。已
ぐ。く。顔色。微。心。此業。多。の。脾
胃と補益ひ。水。心。へ。く。色。ず。の。急。忽。ら。心。下。と。用

い。み。と。治。す。事。め。り。ま。う。れ。ど。も。此。業。を。報。り。ゆ。ら。と。お
し。補。と。強。く。な。る。病。百。人。の。ち。ら。よ。一。二。人。も。り。り。さ。り。病。ち
治。る。べ。し。月。の。べ。し。り

○血团

血の及とり病ハ男女ともあり。その病を下。さ。が。り。吐。何。と
か。く。と。病。ふ。く。大。便。事。小。結。く。或。ハ。下。痢。あ。ら。ひ。の。後。り。或
ハ。不。食。し。或。ハ。食。す。り。又。ハ。動。脈。は。と。く。脊。より。か。こ。そ。細。く
ら。り。の。り。せ。耳。鳴。眼。う。す。く。頭。痛。し。中。の。も。急。ぐ。ら。く。腰。ひ。ご。つ
る。が。く。一。せ。も。前。も。か。る。る。病。ひ。し。さ。い。く。と。歩。け。り。の。痛。く
こ。と。さ。り。な。ら。う。病。病。は。伏。し。も。下。は。唯。病。周。ふ。が。り。く。し。や
して。病。年。小。よ。く。ら。病。づ。つ。き。わ。し。の。と。も。ん。か。ら。ま。た。り。と。も

動 驚 恐 甚 多
 の 下 と 瀧 り 吐 吐 吐 吐



驚 恐 甚 多
 吐 吐 吐 吐
 後 手



たき半を深くつんじさく人目ふさめ病人のやうも
又、すくすく、つんじつんじなる。これ、病の大病なり
然、医持て病名を知らざるも、今、この病、脾胃虚損より
起る、病なり、乾中婦人のさう、情を深く、むらば、むらば、
半往らば、おきり、と月水滞り、遠く、大病を、おし、おし、
此、病、王、者、の、脾胃、と、補、益、を、血、と、く、吹、り、を、氣、を、并、死、を、
と、す、り、。骨、と、さ、ん、と、又、婦、人、の、月、水、が、こ、り、な、く、あ、り、む
妙、刑、の、名、男、女、と、も、大、考、の、病、病、小、月、ひ、く、せ、お、結、病、あ、る
ら、こ、り、半、や、り、れ

○ 勞 咳

夫、病、後、の、氣、弱、虚、弱、の、氣、と、骨、痛、し、く、後、す、こ、り、と、も、原

脾胃の虚損より起る。脾胃虚損するとならば、血が、こ、り、
火、さ、か、ん、と、お、り、骨、痛、し、。肥、肉、終、味、と、な、り、後、と、生、れ、
胃、の、陽、氣、を、く、く、吹、り、を、血、の、氣、血、約、痛、小、月、ひ、り、。後、動、口、を、
ゆ、く、骨、痛、と、な、る。さ、う、と、大、夜、結、し、又、水、浮、り、後、ふ、か、
まり、お、き、初、め、は、骨、を、く、り、選、止、や、せ、つ、れ、終、味、と、吐
号、で、骨、痛、と、り、つ、れ、咳、ひ、つ、と、り、骨、痛、り、。後、色、ひ、り、
病、と、り、ど、も、大、夜、う、ら、り、又、下、利、ら、ら、小、夜、を、あ、り、ら、ひ
つ、れ、利、と、止、め、結、する、と、お、り、げ、後、中、結、色、ひ、り、も、け、後、
あ、ら、大、便、下、利、も、あ、り、後、骨、痛、の、骨、痛、
ゆ、く、利、な、ま、り、月、ひ、り、と、も、利、な、り、

○ 崩 漏

婦人の崩漏といふは、月水大ふ下り、堪うぬる事あり。此は、
王國、崩漏と云ふは、血を多し下り、月水大ふ下り、堪うぬる事あり。此は、
月水、小清血多し下り、崩漏、人右の血ふしと、月七、初なり。

○赤白帶下

婦人、小赤血、血が血といふ。月水、平生、後血の、多し下り、
多し下り、後血、小崩、おと流し、甚ど、多し下り、血あり。此は、
血、帰湯と、名、のら、い。

○血帰湯

黒燒香附子一匁 生香附子壹匁
當歸 壹匁 桂心 五分 于姜 五分

右、五味と、名、のら、い。小見、ト、き、ふ、く、小、業、と、名、大、丸、業、
き、ふ、く、づ、か、の、用、い。

○脹満 附水腫

此症、古方、小、鼓、法、と、り、り、る。痛、振、三、種、と、之、と、も、
發、する、症、の、け、業、と、名、い、る、は、し、る。

○水腫、と、い、は、脾、胃、の、虚、換、より、小、便、を、せ、
教、の、お、と、く、も、定、ま、す、も、は、し、る、は、し、る、
業、主、の、脾、胃、と、補、益、と、名、い、る、血、と、
此、症、も、初、後、あ、ら、い。

○ある、症、小、俗、常、後、と、り、り、る。血、腫、と、
あ、ら、い、後、を、か、り、後、出、る、症、あり。こ、れ、は、
と、名、の、よ、う、し、き、後、の、用、ひ、く、初、後、す、
は、し、る、は、し、る、は、し、る、は、し、る、は、し、る、

○右、の、通、り、は、し、る、は、し、る、は、し、る、
は、し、る、は、し、る、は、し、る、は、し、る、

其病ふりやつと。彼医解あり業とまらふらら。さか
 くらとぬり。天救そごふ。短命なる人。世ふ多し。こまふ
 其びず。病論。病と争ふ。世に人。天壽と保と。いんと
 歎す。能く考へあつ。服薬す。き半。專要なり。
 右。能書加味。の良法。の。是と。救百人。あつ。ふ。主。能。知。ら
 ぶ。い。後。遠。近。を。送。部。の人。病。小。熱。く。ん。半。と。致。し。く
 那。い。ら。り。い。れ。もの。ぬり

首文化十年 癸酉仲秋

潜龍陳人鼎貫誌

皇都五條建仁寺町西八町

本家製藥所

石田勝秀



本國丹波亀岡在穴川村

出張弘所

東京新橋加賀町

石田運平



大阪四ツ橋東北詰

岡本喜兵衛

各 國 元 弘 所

京都 烏丸通二條下町	丹羽 栄三郎
京都 今出川通堀川舟橋	大 崎 九左工門
東京 小網町二丁目	嶋 屋 新 助
土佐 高知本町二丁目	佐 藤 安右工門
紀伊 和歌山裏橋筋	謙 訪 正 吉
紀伊 熊野新宮殿治町	吉 聖 屋 覚 右 門
阿波 徳島葛屋町	藤 田 新 兵 衛

讚岐 丸龜富屋町 善正寺
伊豫 宇和嶋郊之町 道後屋太郎兵衛
伊豫 吉田本町二丁目 黒田喜平治
伊豫 松山漆町二丁目 岡市郎
若狹 小濱上竹原村 久保清右工門
越前 敦賀三日市町 桑名屋市右工門
越前 府中登町 仕足屋嘉兵衛
越後 柏寄嶋町 高橋作太夫
丹波 福知山下柳町 紅谷伊兵衛
丹波 栢原中町 若狹屋與助
丹後 河守新町 田丸屋吉耶
丹後 宮津田町 大黒屋忠兵衛
丹後 舞鶴寺内町 中節屋碓五郎
但馬 城崎郡口佐堅村 上賀彦右工門
因幡 鳥取知須街道 小泉治郎平

石見 邑知郡矢上村 市木屋健三郎
石見 津和野横堀町 木村屋弥左工門
石見 濱田 松浦氏十郎
攝津 兵庫東出町 木谷六三郎
播磨 龍野太田町 福田屋金兵衛
播磨 多可郡西殿村 來任茂兵衛
美作 津山元奥町 大沢忠藏
周防 富田土井町 岩本屋勘助
長門 下之関觀音寄 永積安兵衛
長門 萩東田町 佐伯屋条藏
豊後 鶴寄出町 三好屋清兵衛
豊前 中津古博多町 和弋屋平藏
豊前 小倉在大橋村 山口屋利兵衛
豊後 臼杵市町 山積屋長右工門
豊後 府内萩原新町 利光道太郎

豐後府内	豐後佐伯内町	豐後日田	豐後岡	肥前長崎東濱町	肥前平戶佐世保浦	肥前唐津刀町	肥前大村本町	肥前嶋原橋口町	筑前福岡大皿山口	筑前博多新川端町	筑前木屋瀬	筑前直方町	筑前芦屋町	筑後備米札之辻三丁目
内藤宗八	神谷俊藏	并屋大助	三藤屋	田中屋孫四郎	萬屋弥兵衛	萬屋伐兵衛	三根屋藤兵衛	抑屋市治衛	袞賀屋嘉助	紅屋善助	松本與助	松井七平	萬屋平右五門	森田屋芳五郎

大和五奈西町	大和山邊郡丹波市	大和十市郡田原本	大和奈良東向北之町	伊勢津中之番	伊勢權現前村	伊勢山田久留町	伊勢川崎	伊勢千州村	尾張名古屋裏門前町	尾張中嶋郡稻葉在松下村	三河稻橋宿	遠江見附西坂町	遠江見附在森新町	駿河沼津新町
吉野屋善兵衛	久保重平	大西平助	和田嘉三作	中条五兵衛	在間仁喜平	大井良平	東金屋甚九郎	福田兵藏	浅野喜久治郎	木綿屋清兵衛	美濃屋信四郎	合戸屋吉藏	山中理三郎	惠日壽屋百吉

近江	高宮	馬場惣平
近江	長濱宮町	若森彦三郎
近江	八幡奥屋町中耶上	船橋治兵衛
近江	八日市在南村	市田武兵衛
美濃	岐阜切通村	丸屋佐右五門
美濃	養老麓有尾新田	松永繁右五門
美濃	郡上八幡新町	澤瀉屋伊兵衛
美濃	大野郡房真村	渡邊太郎治
美濃	可兒郡御嶽中村	松野屋源左五門
美濃	大垣中町	若林嘉重郎
美濃	岐阜鞆屋町	龜屋佐平
美濃	岐阜	近藤伊三郎
飛騨	高山真横町大要	永樂屋庄助
信濃	飯田櫻町一丁目	紙屋利三郎
信濃	松代馬喰町	丸山與耶

信濃	善光寺河内陀院町	山屋儀助
信濃	木曾藪ヶ原	葛屋武兵衛
陸中	盛岡郡山	小野權右五門
陸奥	津輕土手町	宮本甚助
磐城	棚倉古町	井上代助
肥前	佐賀白山町	江口東平
肥前	佐賀白山町	槌屋壯助
陸奥	箱館大黒町	近江屋清六
陸奥	津輕弘前	武田庄七
備前	児嶋郡々村	中栄屋弥三郎
備中	東大嶋早崎村新海瀑	川本屋千代吉
近江	神崎郡新村	荻野儀兵衛
近江	日野渡冷町	町田庄七
豊前	小倉東橋本	鍋屋五平
尾張	愛知郡鳴海在長嶽寺傳持	中野信次郎

